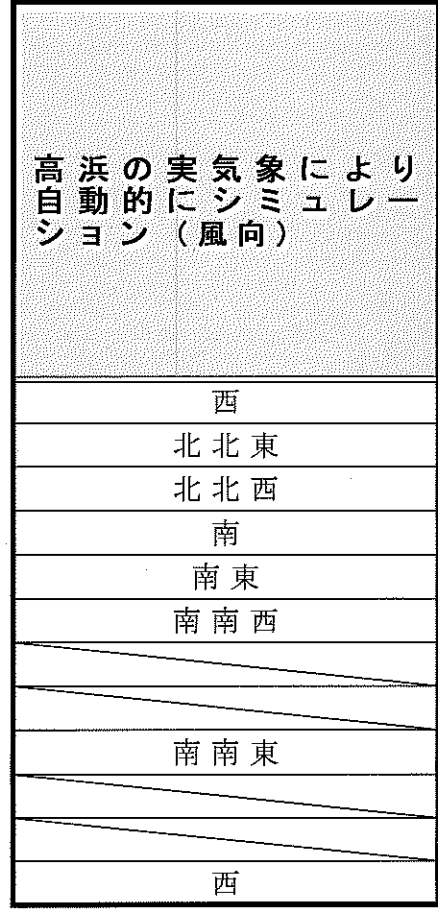
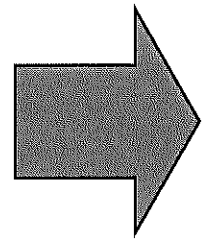


S P E E D I による放射性物質拡散予測結果について

【予測の条件】

- ① シミュレーションには、気象庁の実気象に基づく日時を選定する必要
- ② 高浜に気象庁の観測所がないため、最寄りの小浜観測所データから月別に出現頻度の高い風向を選定
- ③ 各月別に上記②の風向の出現頻度が最も高い日時（24時間）を抽出
- ④ 上記③における日時の高浜での実気象により自動的にシミュレーション

小浜観測所（気象庁）データから条件設定					
図形番号	月	月別の出現頻度が高い風向及び平均風速		風向から「最も近似する24時間」として抽出した日時	
		風向	風速	日時	[参考] 天気
1	1月	西	4.3	1/19 05時～	曇り時々晴れ
2	2月	北北西	5.3	2/20 22時～	曇り時々晴れ
3	3月	北	4.4	3/ 2 22時～	雨時々曇り
4	4月	東南東	4.8	4/ 8 01時～	曇り
5	5月	東	5.5	5/12 06時～	曇り
6	6月	南南東	2.3	6/27 07時～	曇り時々晴れ
	7月	東南東	4.4	4月に包括されるため予測は実施せず	
	8月	東南東	3.6	4月に包括されるため予測は実施せず	
7	9月	南東	4.9	9/17 15時～	雨後曇り
	10月	東南東	3.4	4月に包括されるため予測は実施せず	
	11月	東南東	4.1	4月に包括されるため予測は実施せず	
8	12月	西南西	4.6	12/15 21時～	曇り



【図形の種類】（放出量は「単位放出」（1時間当たり1ベクレル））

- ① 吸入による甲状腺被ばく等価線量（核種：ヨウ素） → 放出時間10時間での24時間後の積算線量
- ② 外部被ばくによる実効線量（核種：セシウム137） → " "

<参考>

- ・ 等価線量：被ばくによる体内の組織・臓器への影響を評価できるようにした線量
- ・ 実効線量：被ばくによる影響は、体内の組織・臓器によって異なるが、組織・臓器の被ばく線量を全身への被ばく線量に換算し、全身への影響を評価できるようにした線量

【濃度の算出に当たって乗じる数値】

- ・ヨウ素 → 5万テラベクレル (5 × 10¹⁵ 倍)
- ・セシウム137 → 2,700テラベクレル (2.7 × 10¹⁴ 倍)

- ・保安院が公表している最新推計値
- ・福島第一原発から放出された放射性物質の推定全量 (3/11~3/18 1基当たり)
- ・H24.2.1の保安院意見聴取会において、技術的知見の中間取りまとめとして示されたもの (国としての確定ではない。)

【府内市町村への影響】

図形番号	月	府域へ影響	ヨウ素 (内部被ばく)			セシウム137 (外部被ばく)	
			避難 (予測図の等値線)	一部対象地域のある市町村	屋内退避 (予測図の等値線)	一部対象地域のある市町村	避難
1	1月	なし					<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">基準超過なし</div>
2	2月		----- 500mSv	舞鶴市、綾部市	----- 50mSv	舞鶴市、南丹市、綾部市、京丹波町、南丹市、亀岡市	
3	3月				----- 50mSv	綾部市、南丹市、亀岡市、京都市(右京区)	
4	4月	なし					
5	5月		----- 500mSv	舞鶴市	----- 50mSv	舞鶴市、宮津市、伊根町、京丹後市	
6	6月	なし					
7	9月		----- 5,000mSv ----- 500mSv	舞鶴市 (大浦半島の一部) 舞鶴市	----- 50mSv	舞鶴市	
8	12月	なし					

<京都府地域防災計画 (原子力発電所防災対策計画編) による避難等の指標>

予測線量 (単位: mSv ミリシーベルト)		防護対策の内容
外部被ばくによる実効線量 (セシウム137等)	放射性ヨウ素による小児甲状腺の等価線量	
<第1レベル>		屋内退避
5 ~ 10	50 ~ 100	
<第2レベル>		コンクリート屋内退避
10 ~ 50	100 ~ 500	
<第3レベル>		避難
50 以上	500 以上	